

## 事前に提出のあったご意見・ご質問と事務局の考え方

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
4	世帯	1(1)	1(1)の性別について、「アンケート調査」では「その他」「回答しない」を設けていますので、時勢的にも合わせたほうがよいかと思えます。	ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。	世帯調査1(1)の③性別に「3その他」を加えます。 (答えていただきたい前提のため、「4答えたくない」は選択肢として入れないこととする。アンケート調査も修正。)	
5	世帯	1(1)	1(1)の学歴について、「専修学校」を「高等専修学校」と「専門学校」に分けることはできませんでしょうか。 特に若い世代では、専門学校は高校卒業後の進路として大きな地位をしめてきており、かつてと意味合いがかわってきているように思います。	本調査の目的やアイヌ関係団体の認識、統計調査の継続性の観点から質問及び選択肢の内容について再検討します。	調査の継続性から「専修学校」の呼称を維持。 (なお、「卒業後の進路」という観点では、市町村調査において中学及び高校それぞれの卒業後の進路として専修学校が選択できるため、高等専修と専門学校の区別も推定できると思われる。)	
6	世帯	1(1)	1(1)の学歴について、いわゆる一条校と職業訓練はわけられませんかでしょうか。		〃	
16	アンケート 【世帯調査】	3	幼児教育や学習塾について「なぜ行かなかったか(なぜ行けなかったか)」を聞いているが、本来は、高校や大学などの高等教育についてこそ「なぜ行かなかったか(なぜ行けなかったか)」を調査することが重要であり、そのような質問を追加すべきである。	ご意見の趣旨を踏まえそのような質問の新設の可否を検討いたします。	世帯調査1(1)⑥として”高等教育に進まなかった理由”を新設します。 以下、(世帯調査1(1)の)項目番号を繰り下げます。	
7	世帯	1(4)	「就労するために必要とした免許等」について、選択肢は他にも考えられるのではないかと。免許の項目を増やすなどして回答の選択肢を広げてはどうか。	どのような免許等を追加することが可能か検討します。	具体的に必要な免許の種類も多岐に渡ると想定されるため、現状の項目「その他」に記載することで対応したい。 また、「海事従事免許」は「船舶免許」とほぼ同義に回答されているため選択肢を「船舶免許」とした。	
8	世帯	3(2)	6ページ「生活について」(2)が「2つ選択」から「すべて選択」に変わっています。それは良いと思うのですが、このような設問で「すべて」にすると「全部に○」が多くなる気がします。例えば「当てはまるものすべてに○」そのうえで「特に不安に思っていること2つに◎」のような取り方はいかがでしょうか。	ご意見の趣旨及び回答者の負担を考慮して回答方式を再検討します。	複数回答を認めつつ、「特に」を併記します。 (“複数回答と「特に」”の整合性という問題が残りますが、複数回答を認めつつも最小限に絞り込むという趣旨を残すことで、回答に差異ができることを期待します) No. 14と15も同じ。	

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
9	世帯	5(3) 5(9)	「とても難しく借りられなかった」とあるが、この選択肢の文言であれば、個人的な要因だけと受け取れないか。貸付制度に問題があるような場合に、その内容が「借りられなかった理由」に回答されなくなるのではないか。「とても難しく」は削除すべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。	設問から見直し、「貸付金を利用しようとしたときに、何か支障になったことはありますか。」に変更します。	
14	アンケート	1-3	上記すべて選択と特に重要とをわけられませんかでしょうか。	「特に」を削除する方向で検討します。	修正なし。複数回答を認めつつ、「特に」を併記します。 （“複数回答と「特に”の整合性という問題が残りますが、複数回答を認めつつも最小限に絞り込むという趣旨を残すことで、回答に差異がでることを期待します） No.8も同じ。	
15	アンケート	1-3	設問文に「特に」とついているのに、複数回答ということに少し違和感があります。「特に」というと回答数に制限をかけることが通常かと思えます。			
20	アンケート	3-2	学習塾と家庭教師の経験について、これまでの調査との比較検討はできませんが、習い事（お稽古事）の経験の有無は必要ないでしょうか（家庭教師よりも、ピアノや水泳のような習い事のほうが普及していると思ったので、一応コメントします）。	ご意見の趣旨を踏まえそのような質問の新設の要否を検討いたします。	「習いごと」については記載しないこととします。 *調査の趣旨（学校の授業についていけない、進学のために必要だが通わせることができないetc.）やボリューム増を鑑み、原案のとおり。	
23	アンケート	4-9	アイヌ語の会話能力に限定しており、これはこれでよいと思ったのですが、「話すことはできないが聞き取ることができる」という状況もありそうだと思います。ただ、話す能力と聞く能力を分けて聞くとするならば、選択肢はより複雑になりますが。さらに言えば、旧調査では、「アイヌ語を知っているかどうか」のニュアンスも選択肢にあるので、そのあたりを厳密に聞く必要はないでしょうか。	ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。	選択肢は当初案どおりで対応させていただきたい。 （選択肢のボリューム増を懸念）	
24	アンケート	4-9	「アイヌ語がどの程度できますか」という質問に対して、回答選択肢の「2 少し会話ができる」と「3 ほとんど会話ができない」には大きな差があるように感じる。「アイヌ語を聞いてわかるが話すことができない」という場合、どの選択肢を選ぶべきか、回答者は苦慮するのではないか。	ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。		

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
25	アンケート	5-2	<p>この設問を追加する目的が曖昧ないように思います。 この設問に対し、仮に「意識しない」との回答が多数あった場合、どのような対策を念頭に置かれているのかわかりにくいように思います。 アイヌ文化実践に参加しやすくする対策でしたら、4の一連の設問に応じた対策でも十分に包摂できるでしょう。</p> <p>他方で、仮に「意識しない」との回答が多数あった場合、アイヌ施策に否定的な立場の人々に、アイデンティティをめったに意識しないのに、アイヌ福祉対策としてお金だけは受けとる人々である、という主張の根拠を与えてしまう恐れがあります。 正直なところ、私個人としても関心のある調査項目ではありますが、結果によっては、深刻なデメリットにつながりかねないことから、この設問は見送る方がよいように思います。 こうした観点からは、「アイヌ民族としての帰属意識（アイデンティティ）について」よりも、「アイヌ民族であるとの認識について」などの方が望ましいかもしれません。</p> <p>他方で、「アイヌである」とわかった時期やきっかけを確認しているわけですから、祖父母・父母が祖先にアイヌがいることを戸籍等の行政文書で確認した経験、及び「アイヌである」とわかった本人の行政文書による確認経験の有無や、それによって把握できたかどうか等を確認してもいいかもしれません。 戸籍によってアイヌ民族の血統を有することを立証できる方が多少なりともいることを示すことに、一定の意義があるように思いますが、もちろん、確認を試みた方がいない、戸籍によって立証できる方がいない、という結果になるリスクもあります。 ただ、この手の調査にご協力いただける方には、北海道アイヌ協会の会員資格確認等において、何らかの形で、戸籍確認をなさった方がいらっしゃるでしょうから、そのリスクは低いのではないかと思います。貝澤和明委員にご確認いただくと何か情報をいただけるかもしれません。</p>	<p>アイヌの方々が、自らがアイヌ民族であることをどの程度意識しているかについてはアイヌの方々の民族としての帰属意識に関する基本的な質問であると考えたことから、本調査票案に盛り込んだところですが、ご指摘を踏まえ、この設問について再検討いたします。</p>	<p>本設問については、政策への反映との関係や、結果を公表した場合の影響を考慮し削除します。 (以降、番号をくりあげる)</p>	
26					〃	

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
27	アンケート	5-2	「アイヌ民族であることをほとんど意識しない」とか、「常に意識している」とか、このようなことを道が実態調査で質問する意味合い、理由は何か。このようなことを聞いて、道の施策の検討にどのように反映させようというのか。削除したほうが良いのではないか。また、これほどまでに細かい選択肢で聞く必要があるのか。	”	”	
28	アンケート	5-6 【5-5】	「3. アイヌ差別の経験」ですが、具体的な差別経験はなくとも、「アイヌ差別」という事象に関していやだと感じている人もいます。「3. アイヌに対する差別」としたほうがよりよいのではないのでしょうか。	ご意見の趣旨を踏まえ、選択肢を再検討します。	<b>質問番号を「5-6」→「5-5」に繰り上げ。</b> 設問5-5の選択肢を、「3. アイヌに対する差別の経験」とします。	
29	アンケート	5-7 【5-6】	選択肢がメディア関係は「テレビ」と「本」しかありませんが、今だとSNSなどのインターネットの記事なども一般的かと思いました。その他に含めるので構わないですが、一応コメントしておきます。	ご意見の趣旨を踏まえ、選択肢を再検討します。	<b>質問番号を「5-7」→「5-6」に繰り上げ。</b> 設問5-6に選択肢、「9. インターネット・SNS等」を追加します。	
30	アンケート	6-1 6-2 6-3	「その時は差別だとわからなかったが後になって差別だと気づいた」という場合、どう答えたら良いのか。 「わからない」という選択肢はないのか。(6-1,6-2)	「差別されたことがある」の回答を選択するよう調査員に周知します。 「わからない」の選択肢については、6-3との整合性の観点から再検討します。	「その時は差別だとわからなかったが後になって差別だと気づいた」という場合、「差別されたことがある」の回答を選択するよう調査要領に記載し、調査員に周知します。 6-1, 6-2については、選択肢に「3. わからない」を追加します。	
31	アンケート	6-1 6-2	差別に関する質問の場合分けが複雑で、留置・郵送を併用するとなると回答が難しいと思います。6-1, 6-2の選択肢に次に回答する行き先を提示するなど、整理できるとよいと思います。	6-2の設問文の下に「6-1, 6-2の両方に「2.」と回答した方は、6-8まで進んでください。」という旨を記載して、次の行き先を明示することにします。	6-2の設問文の下に『6-1, 6-2のいずれも「2」または「3」と回答した方は、【A】と書かれた質問は回答不要です。』という旨を記載して、次の行き先を明示することにします。	
32	アンケート	6-3	「複合差別」についての注はあるのですが、単語として専門的すぎるというか、唐突な気がしました。たとえば、「複数の差別」のほうが自然な気がします(あくまでも感想です) 選択肢の「 」内、「高齢」は「年齢」のほうが適切かと思います。	回答者に分かりやすくなるよう設問の形式や選択肢の文言を再検討します。	第2回の議論を踏まえ、調査票には「複合差別」という言葉は記載せず、『 <u>アイヌであることに加え</u> 、その他の要因も合わせて「差別」を…」とします。 選択肢中の「高齢」は「年齢」とします。	

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
34	アンケート	6-7 【6-9】	<p>選択肢の中に、「アイヌ施策推進法」の周知、理解の推進などを含めてもよいのではないかと思います（差別が法律で禁止されていることへの理解）。</p> <p>また、学校、地域、行政だけでなく、アイヌ民族の側からの啓発的な活動や、メディアでの啓発的な取り組みの充実などを選択肢に入れることもありかなと思いました。</p>	<p>前回調査での質問・選択肢の内容との継続性も勘案しながら本設問について再度検討します。</p>	<p><b>質問番号を「6-7」→「6-9」に繰り下げ。</b> 国の施策に関わる部分であるため、回答項目は追加しないこととします。 また、設問内容を鑑み、「差別を受けたことがある」人以外も答える設問とします。</p>	
35	アンケート	6-8	<p>「差別や偏見はない」と考えている人が答えられる仕組みが必要です。質問文に（問6-1または6-2で1.を選んだ方）を加えるか、選択肢に「4.差別や偏見を感じることはない」を加えるか。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。</p>	<p>選択肢に「4.差別や偏見を感じることはない」を加えることとします。</p>	
36	アンケート	6-9 【6-7】	<p>質問6-9を聞くのであれば、その設問で終わりするのではなく、「ではどうすれば良いと思うか」などと解決策につながる設問が必要であると思う。</p>	<p>質問6-7を修正し、設問の位置を入れ替えるなどの対応を検討します。</p>	<p><b>質問番号を「6-9」→「6-7」に繰り上げ。</b> 設問6-9を設問6-7とし、設問6-1, 6-2, 6-7で受けた（見た）差別への対応について、新6-9（差別をなくしていくための設問）に繋げるよう修正します。</p>	
38	アンケート	6-9 【6-7】	<p>「4.ほとんど見かけない（またはインターネットやSNSをほとんど閲覧しない）」は、「見かけない」と「ネットを使わない」に選択肢を分けたほうがよいと思います。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。</p>	<p><b>質問番号を「6-9」→「6-7」に繰り上げ。</b> 「インターネットやSNSをほとんど使わない」を選択肢に加えます。</p>	
39	アンケート	7-4	<p>この設問文の表現では、交付金の事業メニューがこの選択肢に限定されて定まっているような印象を受けてしまわないか。 もっと他の事業や取組についても自由に記述できるような配慮をしてほしい。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ質問の内容を再検討いたします。</p>	<p>国の施策に関わる部分であり、設問を削除します。 (No. 40 41に同じ) 以下、質問番号を繰り上げ。</p>	

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
※ 1		【7-3】	<p>令和元年に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）」が施行され、アイヌ施策を総合的かつ継続的に実施するため、市町村の取組を支援する「アイヌ政策推進交付金」が創設されましたが、あなたのまわりで何か変化がありましたか。</p> <p>1.アイヌ民族に対する理解が進んだ 2.学校教育で取り上げられる機会が増えた 3.アイヌ文化に関する活動が盛んになった 4.アイヌ語の振興が図られた 5.何も変わらない 6.その他</p>		(内閣官房からの案) 質問項目7-3について、以下に示すとおり修正を行いたく思います。	
40	アンケート	7-6	<p>回答が難しい気がします。どのくらい知られているかを知りたいならば「1.よく知っている～4.知らない」のスケールで良い気がします。また、内容も知る必要があるならば、「この施設でよく知っているもの」を複数回答で「1.設置の意義 2.展示内容…」などとすれば良いのではないのでしょうか（例えば選択肢3は、「名前は聞いたことあるけれどどこにあるかは実は知らない」という人が回答できません）。</p>	<p>前回調査での質問・選択肢の内容との継続性も勘案しながら本設問について再度検討します。</p>	<p>国の施策に関わる部分であり、設問を削除します。 (No. 39 41に同じ) 以下、質問番号を繰り上げます。</p>	
41	アンケート	7-7	<p>ウポポイについては、「象徴空間であるという意味」「国立アイヌ民族博物館」「共生公園」「慰霊施設」などがそれぞれ異なるイメージで見られている気もします（例えば博物館は賛成だけれど慰霊施設については言いたいことがあるなど）。この辺は汲む必要はありませんでしょうか。7-7が近いかもしれませんが。</p>	<p>質問の分量の制約もあることから、7-7は民族共生象徴空間の全体としての役割に係る認識についての質問としたいと考えております。</p>	<p>国の施策に関わる部分であり、設問を削除します。 (No. 39 40に同じ) 以下、質問番号を繰り上げます。</p>	
43	アンケート	7-8 【7-5】	<p>国際交流については、「国際交流をすべき」と「国際交流に参加したい」には開きがあるように思います。「1.関心がある（交流してみたい）」だと、「関心はあるが交流したいとまでは思わない」人が回答に困ると思います。</p>	<p>選択肢1と2の間に「2.関心はあるが交流してみたいというほどではない」を追加する方向で検討します。</p>	<p><b>質問番号「7-8」→「7-5」に繰り上げ。</b> 選択肢「1.関心がある」の後の、括弧書き”（交流してみたい）”を削除し、質問番号7-6（旧7-9）で対応します。</p>	

No.	調査票	質問番号	ご意見・ご質問等	事務局の考え方 (第1回→2回)	事務局の考え方 (第2回→3回)	備考
44	アンケート	7-9 【7-6】	<p>選択肢がその他を抜くと2つしかありませんが、たとえば、「先住民としての誇りなどエスニック・アイデンティティについて」、「国（地域）の中での先住民族としての位置、活躍について」などはいかがでしょうか。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ選択肢を再検討します。</p>	<p><b>質問番号「7-9」→「7-6」に繰り上げ。</b>            選択肢に「3. 先住民族としての誇りや帰属意識などについて」「4. 国内（地域内）での立場について」「5. 交流したいとまでは思わない」「6. その他」とします。</p>	